

【10-2-5】 履修モデル（法学部法学科）

法学科では、みなさんの進路希望にあわせて適切な法律科目を系統的に学修できるよう、履修モデルとして、「公共公益モデル」、「企業法務モデル」、「資格・進学モデル」の3つを設けています。各モデルの育成したい人材、予想される進路、履修の考え方は次のとおりです。

(1) 公共公益モデル

地域・社会の持続的発展のために、公益的な業務・事業・部門において、専門的法知識とリーガル・マインド(法的思考力・法的判断力)を活かして活躍する人材の育成を目指します。

公共公益モデル	
予想される進路	国家公務員・地方公務員行政職、裁判所事務官、検察事務官、警察官、消防官、政府系団体職員、国際交流協会職員など
履修モデルの考え方	<p>「公共公益モデル」は、国家公務員一般職（旧Ⅱ種）試験、地方公務員上級試験への対応可能性を念頭におくと同時に、公務員として業務を遂行する上でその理解が必須となる法知識を体系的に身につけることを目的とした履修モデルである。公共公益モデルにおいては、<u>必修科目以外に特に下記の科目を履修する。</u></p>
	<p>《公法科目》 「憲法2（憲法発展）」、「憲法特講」、「行政法総論1」 「行政法総論2」、「行政救済法1」、「行政救済法2」、「地方自治法」、「行政法特講」 公務員として働く上で必須の知識となる憲法および行政法について深く学修する。国家統治のしくみおよび人権保障のあり方について発展的に学修し、国家行政のしくみや行政作用、行政救済手続ならびに地方自治のしくみについて網羅的に学修する。また、試験対応能力の鍛錬も行い、公共公益業務の遂行にかかわる法制度を体系的、実践的に把握する。</p>
	<p>《民事法科目》 「債権法総論2」、「債権法各論1」、「民法特講」 憲法が保障する経済的自由にもとづいて市民が営む経済活動が、どのような基本原則、ルールに従って行われているのかについて学修する。なかでも、売買・賃貸借などの重要な契約を含めた債権に関する法など、財産法の基礎的部分について学修する。また、試験対応能力の鍛錬も行う。</p>
	<p>《商事法科目》 「商法総則・商行為法」、「会社法1」 企業を中心とした経済活動を法的な側面から理解する。</p>
	<p>《刑事法科目》 「刑法各論1」、「刑法各論2」、 刑法における犯罪類型を網羅的に学修し、治安維持において必須となる法知識を身につける。</p>
	<p>《現代・社会法分野》 「労働法1」、「労働法2」 市民生活と密接不可分な関係にある労働環境について、法的な側面から適切に理解する。</p>
	<p>《国際関係法科目》 「国際法1」、「国際法2」 国家間の関係を規律する国際公法を学修し、国際社会の構成員として適切な国家の活動のあり方とはいかなるものかについて、法的な観点から考察する能力を身につける。</p>
	<p>《政治学科目》 「国際政治理論」、「政治外交特講」、「行政学」 法律隣接分野として政治・行政のあり方を学修することによって、法律専門科目で得た法知識がいかなる社会的背景のもとで運用されていくべきかについての理解を深める。また、試験対応能力の鍛錬も行う。</p>
	<p>《関連科目》 「経済学」 法律隣接分野として公共公益活動にかかわる経済のあり方を学修することによって、適切な法制度のあり方についてより発展的に考察する機会を涵養する。</p>
<p>《演習・実習科目》 「リーガル・フィールドワーク」 法の果たす役割を社会の現場において見聞することにより、現代社会のいかなる場面でいかなる法 法 がかかわっているかを体験的に理解し、実社会の中で「生きた法」を学ぶ。</p>	

法学部法学科履修モデル 公共公益モデル

	1年		2年		3・4年				
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期		秋学期		
NGU 教養スタンダード科目	キリスト教(4)	キリスト教概説②	キリスト教概説②						42 単位
	自己理解と自己開発(6)	基礎セミナー② キャリアデザイン 1a②	キャリアデザイン 1b②			キャリアデザイン 3a②	キャリアデザイン 3b②		
	社会的教養(18)	教養科目②	教養科目②、教養科目② 教養科目②	教養科目②、教養科目②	教養科目②	教養科目②	教養科目②	教養科目②	
	言語とコミュニケーション(8)	日本語表現② 基礎英語 1①、英会話 1①	基礎英語 2① 英会話 2①	2年次配当語学①	2年次配当語学①				
	情報理解(2)	情報処理基礎②							
専 門 科 目	導入科目	法学・憲法入門② 民法入門②、刑法入門②	政治学入門②						85 単位
	公法科目		憲法 1a (人権) ②	憲法 1b (総論・統治) ② 行政法総論 1②	憲法 2(憲法発展)② 行政法総論 2②	憲法特講②、行政救済法 1②、地方自治法②	行政救済法 2② 行政法特講②		
	民法法科目	民法総則 1②	民法総則 2②	債権法総論 1② 物権法②	債権法総論 2②	債権法各論 1②	民法特講②		
	商事法科目			商法総則・商行為法②	会社法 1②				
	刑事法科目		刑法総論 1②	刑法総論 2②	刑法各論 1②	刑法各論 2②			
	現代・社会法科目					労働法 1②	労働法 2②		
	国際関係法科目			国際法 1②	国際法 2②				
	基礎法科目								
	政治学科目				国際政治理論②	政治外交特講②、行政学②			
	関連科目			経済学②					
演習・実習科目		専門導入演習②	専門基礎演習 1②	専門基礎演習 2② リーガル・フィールドワーク①	3年次通年 専門演習 1④	4年次通年 専門演習 2④			
自由選択科目(NGU 教養スタンダード科目、専門科目、オープン科目を問わず 10 単位以上)									
学期	1 年春学期	1 年秋学期	2 年春学期	2 年秋学期	3 年春学期	3 年秋学期	4 年春学期	4 年秋学期	
単位数	22	22	23	20	22	14	2	2	127

(2) 企業法務モデル

地域・社会の経済の持続的発展のために、一般企業において、専門的知識とリーガル・マインド(法的思考力・法的判断力)を活かして活躍する人材の育成を目指します。

企業法務モデル	
予想される進路	一般企業の渉外・企画部門および法務・総務・人事・管理などの部門で働く社員、外資系企業、海外の日本企業で働く社員
履修モデルの考え方	<p>「企業法務モデル」は、《民事法科目》および《商事法科目》を中心に学修し、一般企業において欠かせない企業組織や企業取引などに関する知識を幅広く修得し、企業法務にかかわる実務的能力を身につけることを目的とした履修モデルである。企業法務モデルにおいては、<u>必修科目以外に特に下記の科目を履修する。</u></p>
	<p>《公法科目》 「行政法総論 1」、「租税法」</p> <p>一般企業で働くためにも必要な行政のしくみや行政作用について学修し、また、税をめぐる法制度についても把握する。</p>
	<p>《民法法科目》 「債権法総論 2」、「担保法」、「債権法各論 1」、「債権法各論 2」、「民事訴訟法 1」</p> <p>必修科目に加えて、担保・契約・事務管理・不当利得・不法行為などについて発展的に学修し財産法分野を網羅的・体系的に理解することに加え、民事手続法について学修することによって、経済活動に伴って生じる紛争がいかなる手続に従って解決されるのか、民事紛争処理のあり方についての理解を涵養する。</p>
	<p>《商事法科目》 「商法総則・商取引法」、「会社法 1」、「会社法 2」、「手形法・小切手法」、「金融商品取引法」、「保険法」</p> <p>企業を中心とした経済活動を法的な側面から理解することは、「企業法務モデル」における重要な目的である。そのため、商事法の総則的かつ基本的な理解に加えて各種商取引に関する法制度を体系的に理解し、また、会社の設立・機関にとどまらず会社法制を発展的に学修する。さらに、「手形法・小切手法」および「金融商品取引法」、「保険法」をも履修することで、商事法制の現代的理解をはかっていく。</p>
	<p>《刑事法科目》 「刑法各論 1」、「刑法各論 2」</p> <p>刑法における犯罪類型を網羅的に学修すると同時に、企業がかかわる犯罪や経済刑法に関する法知識を身につける。</p>
	<p>《現代・社会法科目》 「労働法 1」、「労働法 2」、「消費者法」、「知的財産法」、「国際知的財産法」</p> <p>企業活動にかかわる業務を遂行する上で有益な法知識となりうる分野として、「知的財産法」、「国際知的財産法」を履修する。また「労働法 1」、「労働法 2」および「消費者法」も履修することで、企業人として自らの雇用環境や、営利企業の側から市民に対して提供されるモノ・サービスをめぐる法的問題についても主体的に考えられる能力を涵養する。</p>
	<p>《国際関係法科目》 「国際取引法」</p> <p>現在、国境を越える取引や企業活動は日常的に行われていることから、国際取引を規律するルールについて学修し、経済活動の国際的側面を法的に考察する視点を涵養する。</p>
	<p>《政治学科目》 「比較政治学」</p> <p>法と政治が相互不可分の関係にある現代社会においては、経済活動の国際政治的側面を比較的に考察する視点が必要である。</p>
	<p>《関連科目》 「経営学」</p> <p>法律隣接分野としての経営について学修することで、経営に関する法制度がいかなる社会的要請にもとづいて構築され発展してきているのかということを理解し、とりわけ取引にかかわる法制度について深く考察する能力を身につける。</p>

法学部法学科履修モデル 企業法務モデル

		1年		2年		3・4年			
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期		
NGU教養スタンダード科目	キリスト教(4)	キリスト教概説②	キリスト教概説②					42 単位	
	自己理解と自己開発(6)	基礎セミナー② キャリアデザイン 1a②	キャリアデザイン 1b②			キャリアデザイン 3a②	キャリアデザイン 3b②		
	社会的教養(18)	教養科目②	教養科目②、教養科目② 教養科目②	教養科目②、教養科目②	教養科目②、教養科目②				
	言語とコミュニケーション(8)	日本語表現② 基礎英語 1① 英会話 1①	基礎英語 2① 英会話 2①	2年次配当語学①	2年次配当語学①				
	情報理解(2)	情報処理基礎②							
専門科目	導入科目	法学・憲法入門② 民法入門②、刑法入門②	政治学入門②					84 単位	
	公法科目		憲法 1a (人権) ②	憲法 1b (総論・統治) ② 行政法総論 1②			租税法②		
	民事法科目	民法総則 1②	民法総則 2②	債権法総論 1② 物権法②	債権法総論 2② 担保法②	債権法各論 1② 民事訴訟法 1②	債権法各論 2②		
	商事法科目			商法総則・商行為法②	会社法 1② 手形小切手法②	会社法 2② 金融商品取引法②	保険法②		
	刑事法科目		刑法総論 1②	刑法総論 2②	刑法各論 1②	刑法各論 2②			
	現代・社会法科目					労働法 1② 知的財産法②	労働法 2②、消費者法② 国際知的財産法②		
	国際関係法科目					国際取引法②			
	基礎法科目								
	政治学科目			比較政治学②					
	関連科目				経営学②				
演習・実習科目		専門導入演習②	専門基礎演習 1②	専門基礎演習 2②	3年次通年 専門演習 1④	4年次通年 専門演習 2④			
自由選択科目(NGU教養スタンダード科目、専門科目、オープン科目を問わず 10単位以上)									
学期	1年春学期	1年秋学期	2年春学期	2年秋学期	3年春学期	3年秋学期	4年春学期	4年秋学期	
単位数	22	22	21	21	20	16	2	2	126

(3) 資格・進学モデル

法学部で学んだ法律学の専門知識を生かした職業に就いて活躍する人材、または特定の法律分野を大学院で深く学ぼうとする人材の育成をめざします。

資格・進学モデル	
予想される 進路	弁護士、司法書士、行政書士、宅地建物取引士、税理士および就職に際して特定の法律分野を大学院で学ぼうとする者
履修モデル の考え方	<p>「資格・進学モデル」は、《公法科目》、《民事法科目》、《商事法科目》および《刑事法科目》を中心に学修し、資格試験や就職にあたって自分に必要な法律専門分野を履修する履修モデルである。資格・進学モデルにおいては、必修科目以外に特に下記の科目を履修する。</p>
	<p>《公法科目》 「憲法2（憲法発展）」、「憲法特講」、「行政法総論1」、「行政法総論2」、「行政救済法1」、「行政救済法2」、「地方自治法」、「行政法特講」、「租税法」</p> <p>公法系の必修科目に加えて、自分の目指す資格試験に必要な公法系の科目を学修することで、資格の基礎として必要な法的知識を体系的に理解するとともに、自分に関心のある法律専門分野を集中的に履修する。</p>
	<p>《民事法科目》 「債権法総論2」、「債権法各論1」、「債権法各論2」、「民事訴訟法1」、「民事訴訟法2」</p> <p>民事法系の必修科目に加えて、自分の目指す資格試験に必要な民事法系の科目を学修することで、資格の基礎として必要な法的知識を体系的に理解するとともに、自分に関心のある法律専門分野を集中的に履修する。</p>
	<p>《商事法科目》 「商法総則・商行為法」、「会社法1」、「会社法2」</p> <p>自分の目指す資格試験に必要な商事法系の科目を学修することで、資格の基礎として必要な法的知識を体系的に理解するとともに、自分に関心のある法律専門分野を集中的に履修する。</p>
	<p>《刑事法科目》 「刑法各論1」、「刑法各論2」、「刑事訴訟法1」、「刑事訴訟法2」</p> <p>自分の目指す資格試験に必要な刑事法系の科目を学修することで、資格の基礎として必要な法的知識を体系的に理解するとともに、自分に関心のある法律専門分野を集中的に履修する。</p>
	<p>《基礎法科目》 「外国法」</p> <p>自分の目指す資格に必要な知識の背景にある外国法を学修することで、資格の基礎として必要な法的知識を習得する。</p>
	<p>《演習・実習科目》 「リーガル・フィールドワーク」</p> <p>法の果たす役割を社会の現場において見聞することにより、現代社会のいかなる場面でいかなる法がかかわっているかを体験的に理解し、実社会の中で「生きた法」を学ぶ。</p>

法学部法学科履修モデル 資格・進学モデル

		1年		2年		3・4年				
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期		秋学期		
NGU教養スタンダード科目	キリスト教(4)	キリスト教概説②	キリスト教②							42 単位
	自己理解と自己開発(6)	基礎セミナー② キャリアデザイン 1a②	キャリアデザイン 1b②			キャリアデザイン 3a②	キャリアデザイン 3b②			
	社会的教養(18)	教養科目②	教養科目②、教養科目② 教養科目②	教養科目②、教養科目② 教養科目②	教養科目②、教養科目②					
	言語とコミュニケーション(8)	日本語表現 基礎英語 1① 英会話 1①	基礎英語 2① 英会話 2①	2年次配当語学①	2年次配当語学①					
	情報理解(2)	情報処理基礎								
専門科目	導入科目	法学・憲法入門② 民法入門②、刑法入門②	政治学入門②							83 単位
	公法科目		憲法 1a (人権) ②	憲法 1b (総論・統治) ② 行政法総論 1②	憲法 2 (憲法発展) ② 行政法総論 2②	憲法特講②、行政救済法 1② 地方自治法②	行政救済法 2② 行政法特講②、租税法②			
	民事法科目	民法総則 1②	民法総則 2②	債権法総論 1② 物権法②	債権法総論 2②	債権法各論 1② 民事訴訟法 1②	債権法各論 2② 民事訴訟法 2②			
	商事法科目			商法総則・商行為法②	会社法 1②	会社法 2②				
	刑事法科目		刑法総論 1②	刑法総論 2②	刑法各論 1②	刑法各論 2② 刑事訴訟法 1②	刑事訴訟法 2②			
	現代・社会法科目									
	国際関係法科目									
	基礎法科目							外国法②		
	政治学科目									
	関連科目									
演習・実習科目		専門導入演習②	専門基礎演習 1②	専門基礎演習 2② リーガル・フィールドワーク①	3年次通年 専門演習 1④	4年次通年 専門演習 2④				
自由選択科目(NGU 教養スタンダード科目、専門科目、オープン科目を問わず 10 単位以上)										
	学期	1 年春学期	1 年秋学期	2 年春学期	2 年秋学期	3 年春学期	3 年秋学期	4 年春学期	4 年秋学期	
	単位数	22	22	21	18	20	18	2	2	125

◎学びの流れ

